

算数科学習指導案（略案）

平成25年2月1日金曜日2校時
 小学部 Aグループ
 男子1人 女子2人 計3人
 場所 小学部3組教室
 指導者 中島絵理子(CT) 福元康弘(ST)

1 題材 「かずしらべをしよう（1～5までの数）」

2 本時の学習（9／18）

(1) 全体目標

- ア 友達や教師と一緒に、数に関する歌遊びに取り組むことができる。
 イ 1対1対応で5までの具体物を数えたり、対応する数字カードを選んだりすることができる。

(2) 個別の指導計画と個人目標

児童	個別の指導計画の目標	個人目標
A (5年, 男)	○ 5までのものを対応付けて数えたり、10までの数字を順序良く並べたりすることができる。	ア 教師が提示するカードを手掛かりにして、歌に合わせて適切な数字カードを選んだり、数字カードを順序良く並べたりすることができる。 イ 音声ペンを使用したり、指さしをしたりしながら、5までのものの数を1対1対応で数えたり、数えたものと対応する数字カードを、教師からの手掛かりを基にして選択したりすることができる。
B (5年, 女)	○ 5までのものを対応付けて数えたり、30までの数唱をしたりすることができる。	ア 数に関する歌に合わせて、具体物を操作したり、自分で数詞と対応しながら具体物を操作したりすることができる。 イ 具体物を一つずつ指さしながら5までのものの数を数えたり、数えたものと対応する数字カードを一人で選択したりすることができる。
C (6年, 女)	○ 5までのものを対応付けて数えたり、10までの数唱をしたりすることができる。	ア 数に関する歌に合わせて、1から10までの数字カードを順序良く並べたり、教師が言った数詞に対応した数字カードを選択したりすることができる。 イ 具体物を指さし、数詞を言いながら5までのものの数を数えたり、数えたものと対応する数字カードを選択したりすることができる。

(3) 指導及び支援に当たって

学習活動の概要

前時までに児童は、数に関する歌遊びや絵本、数を体感する学習などを通して、進んで数を数えようとする姿が見られるようになるなど、数に関する興味・関心が高まっている。また、1対1対応で5までの具体物を数えることもできるようになっている。しかし、確実ではないため、本時は、確実性を高めるとともに定着を図る。具体的には、色や形、素材が違う様々な5までの具体物を1対1対応で数える学習活動を行う。加えて、数えたものと対応する数字カードを選択する活動を行うことで、具体物の集まりと数字を一致できるようにしたい。

教材・教具とのかかわりについて

導入では、数に関する歌遊びとして「数字の歌」を行う。歌に合わせて数字カードを選択したり、教師が言った数に応じた数字カードを選んだりすることで、数に親しめるようにする。展開では、数える具体物の種類を増やすことで、具体物の種類が変わっても数は同じであることに気付くことができるようにしたい。

友達・教師とのかかわりについて

終末に、友達とクイズを出し合う活動を行う。友達が答える様子を見たり、友達の答えが合っているかどうかを確かめたりすることで、学習の理解をより深めることができるようにする。

また、トーキーペンを活用することで、友達との直接的なかわりが生まれるようにしたい。

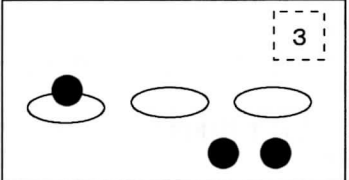
自分とのかかわりについて

一つの課題が終わるごとに、児童がCTに課題を持って来た際には、できたことに対して具体的な称賛をしたり、好きなキャラクターなどを使用した磁石を貼ったりすることで、できたことをより意識できるようにする。また、学習したことをファイルにとじることで、学習をいつでも振り返ることができるようにする。

授業環境の工夫

児童の机を「コ」の字型に配置して、お互いの様子が見えるようにしたり、動線の整理をしたりすることで、学習への意欲がより高まるようにする。

(4) 実際

過 程	主な学習活動	指導及び支援上の留意点	資料・準備
導入 (15分)	<p>1 始めの挨拶をする。</p> <p>2 数に関する歌遊びなどをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「すうじのうた」 「歌絵本」 「1と5で」など <p>3 本時の学習について話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> さらに くばって かぞえよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> STが、サインや口形の見本を示すことで、挨拶をする児童が正面を見ることができるようにする。 「すうじのうた」で、児童が正しく選択できないときには、CTが数字カードを見やすいように提示したり、STが指さしなどの手掛かりを与えたりする。 児童が好む視聴覚教材を使ってクイズを行うことで、本時の学習に意欲をもつことができるようにする。 めあてには、イラストを使用し、児童が理解しやすいようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 司 会 カード 足 型 マット 音声ペ ン 歌遊び カード テレビ パソコン めあて カード
展開 (20分)	<p>4 具体物を配ったり、数えたりする。</p> <p>(1) 個別課題に取り組む。</p> <p>【個別課題の例】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 200px;">  <p>→小ホワイトボード</p> </div> <p>(2) 教師と一緒に確認する。 ア CTと一緒に確認をする。 イ 評価磁石をホワイトボードに貼る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 具体物の種類が変わっても、数は変わらないことに気付くことができるよう、色や形、素材が異なる具体物を用意する。 STは、個別課題に取り組んでいる児童への指導及び支援を行う。 CTは、黒板前から全体の様子を見るようにし、個別課題を終えて持ってきた児童への指導及び支援、称賛を行う。 AとCが、具体物の数と数字を一致できるように、数を一緒に確認したり、数字カードの選択が間違っているときには、正しい数字を伝えたりする。(ST) Bが具体物を配り終わったら、1対1対応をしながら数えることの定着を図ることができるように、指さしをしながら具体物を数えるように促す。(ST) Aが、数詞に合わせて具体物を数えることができるよう、Aの指さしを待ったり、トーカーペンで確認したりする。(CT) Bが、指さしに合わせて数えることができるように、一緒に指さしをしたり、数詞を添えたりする。(CT) Cが、自分で数えた数と数字が一致できるように、Cが数えた具体物の数詞を強調して伝える。(CT) 	<ul style="list-style-type: none"> 籠 個別課題（小ホワイトボード） 磁石 トーカーペン
終末 (10分)	<p>5 本時の学習を振り返る。</p> <p>(1) 取り組んだ課題の中から一つの課題を選び、実際に操作しながら発表する。(全員)</p> <p>(2) クイズを出す。(1人)</p> <p>6 終わりの挨拶をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童が間違ったときには、一緒に指さしをしたり、数詞を言ったりする。(CT) 本時の学習の様子から、出すクイズを決める。(CT) CTが、クイズを出す児童（1人）の支援を行い、STが、答える児童（2人）の支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○×カード

(5) 評価

ア 友達や教師と一緒に、数に関する歌遊びに取り組むことができたか。

イ 1対1対応で5までの具体物を数えたり、対応する数字カードを選んだりすることができたか。